



淀川左岸線（2期）

万博会場アクセスルートとしての活用

大阪市建設局
淀川左岸線 2 期建設事務所

Menu



淀川左岸線（２期）の概要

万博に向けた整備形態の検討と施工上の工夫

工程管理・事業監理の取組

限定した車両の通行を実現するための法的整理

運用管理の仕組み構築と施設整備

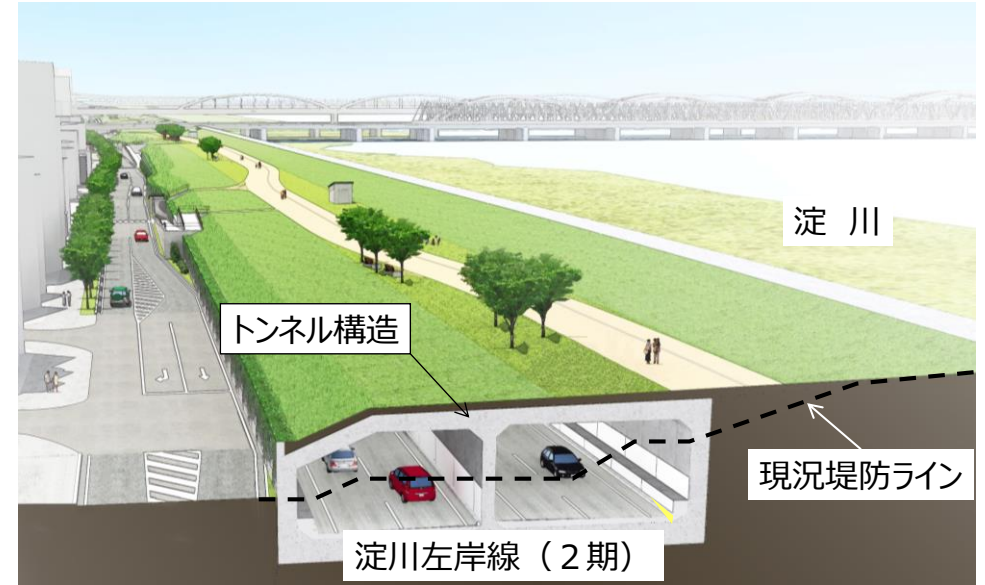
事業PRの取組

まとめ

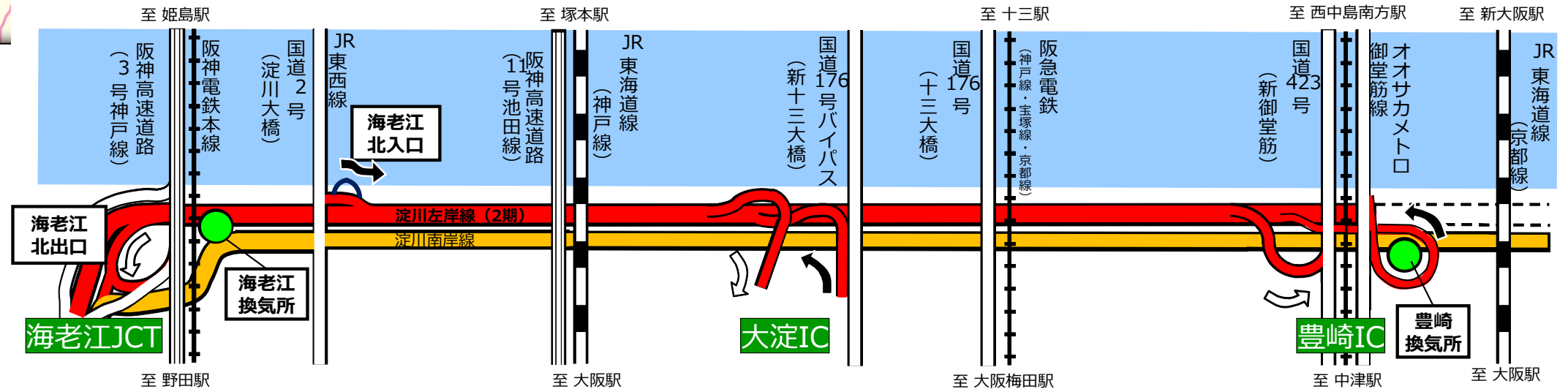
淀川左岸線（2期）の概要



都市再生環状道路



淀川左岸線 (2期)



事業効果

都心部の交通混雑緩和



大阪都心部の通過交通

(通過交通割合※)

10万台/日 (31%)

7万台/日 (20%)

※台数及び割合は環状線利用交通のうち、大阪都心部に流入する通過交通

出典：平成29年度新規事業採択時評価結果（淀川左岸線延伸部）

物流効率化、企業立地促進



大阪港線・環状線等 経由

55分 ※混雑時

20分 (36%) 短縮

淀川左岸線 経由

35分 ※混雑時

迂回路の確保



万博に向けた整備形態の検討と施工上の工夫



来場者輸送具体方針



4. 主な来場者想定ルート

1) 公共交通利用 (鉄道・駅シャトルバス等)

ア) 3つの主要ルート:

- ① Osaka Metro 中央線 (鉄道)
- ② JR 桜島線^{注6} (鉄道+駅シャトルバス)
- ③ 淀川左岸線 (2期)^{注7} (新大阪駅、大阪駅等発の駅シャトルバス)
イ) 主要鉄道駅バスターミナルからの予約制の駅シャトルバス 等
ウ) 空港ターミナルからの直行バス (以下「空港直行バス」という。)
エ) 中距離直行バス・長距離直行バス

- ③ 淀川左岸線 (2期) (新大阪駅、大阪駅等発の駅シャトルバス)
・新大阪駅、大阪駅等の大阪中心部より、定時性を確保した高密度なバス運行を可能とするため、淀川左岸線 (2期) の建設中区間を万博専用アクセスルートとして活用

9. 輸送供給拡大対策

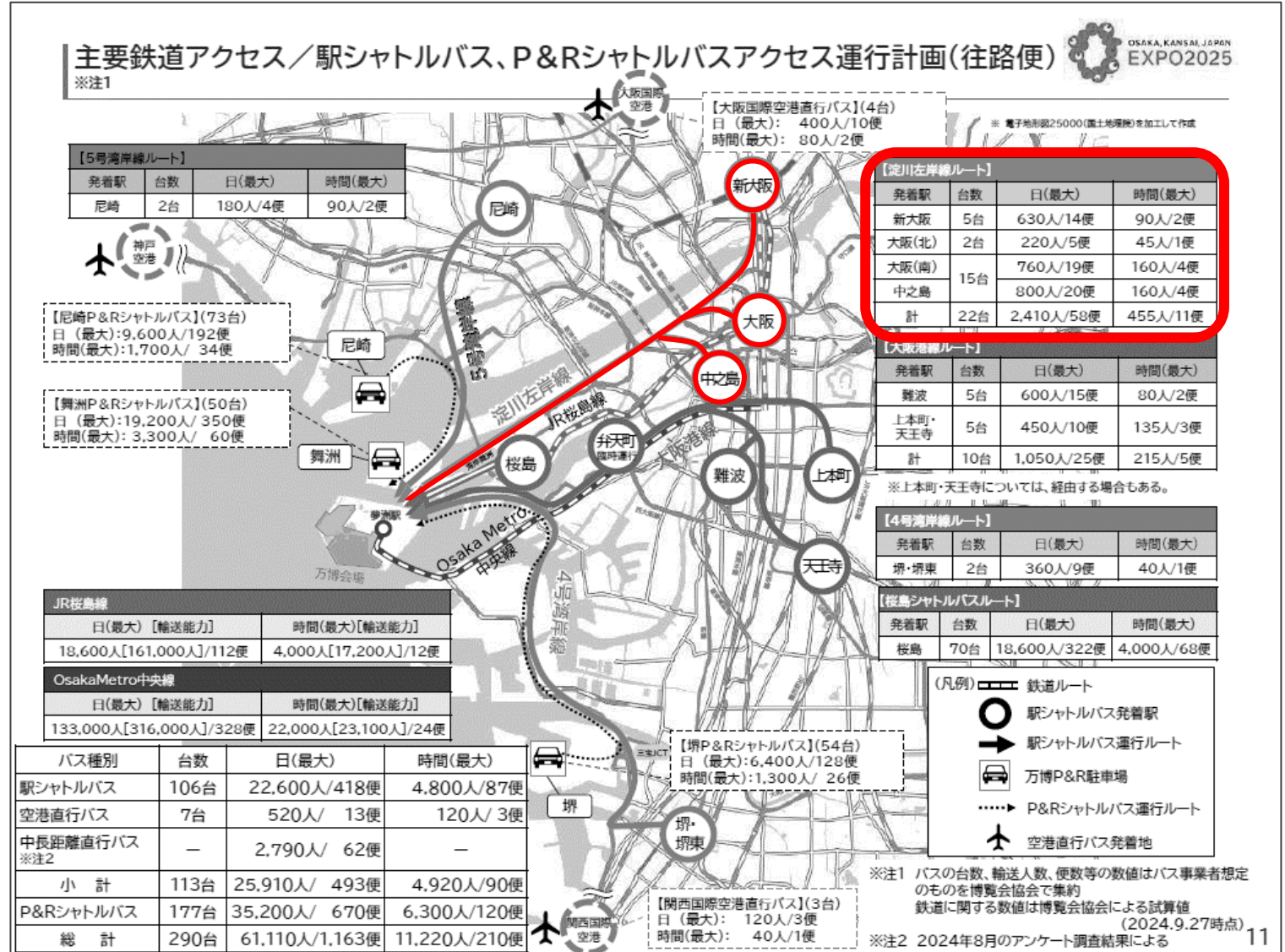
2) 駅シャトルバス

- 主要ターミナル駅からの駅シャトルバスの設定 (10 路線)
- 淀川左岸線 (2期) を駅シャトルバスのアクセスルートとして活用

- 淀川左岸線 (2期) における駅シャトルバスのアクセスルート設定
・新大阪駅、大阪駅等発の駅シャトルバスの定時性を確保した安全・円滑な輸送を実現するため、建設中の淀川左岸線 (2期) を、万博専用アクセスルートとして活用する。

出典：大阪・関西万博 来場者輸送具体方針 (アクションプラン) 第5版 (最終版) 2024.12

6



アクセス時間の短縮効果

7



新大阪駅

【現在】 : 新御堂筋・環状線・大阪港線ルート
【整備後】 : 新御堂筋・淀川左岸線ルート

16分(46%)短縮

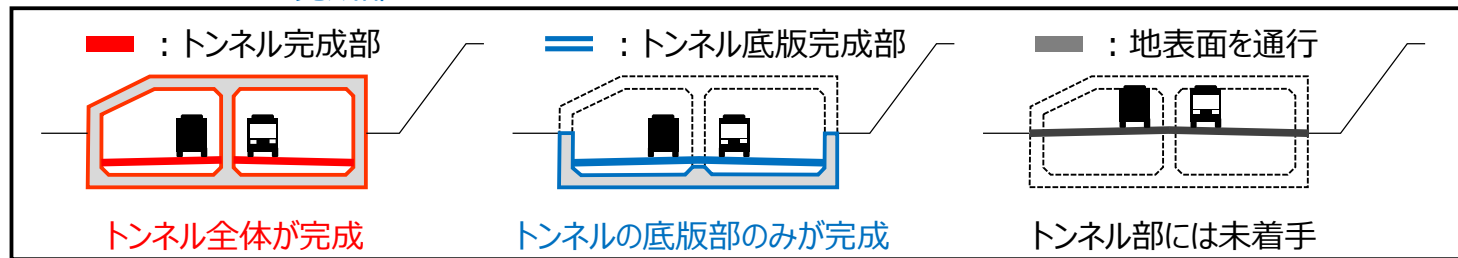
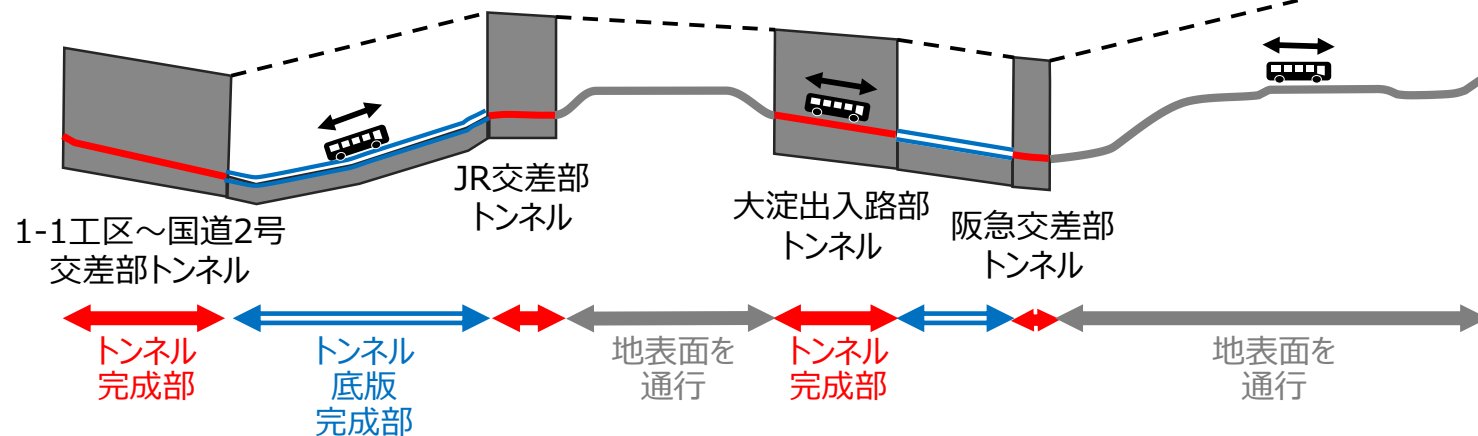
19分

35分

夢洲
〔万博開催地〕

整備形態の検討

8



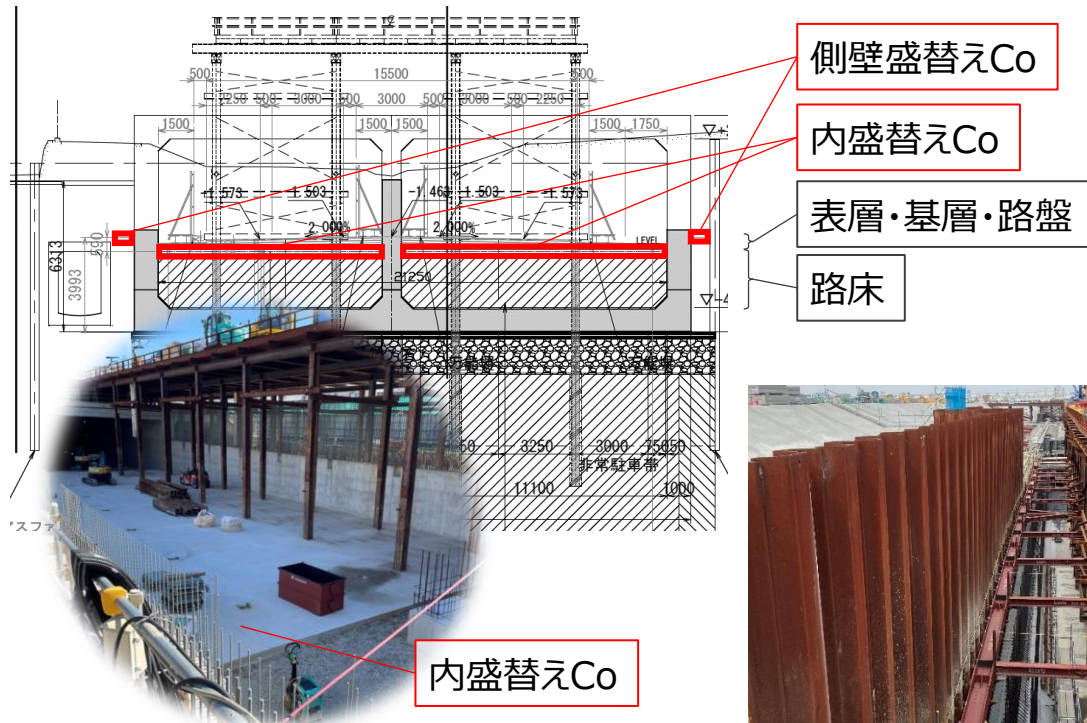
- 本事業の完了予定：令和14年度
 ⇒トンネル構造物がすべて完成するわけではない
- 可能な限りトンネル本体工事を進める
 アクセスルート整備を完了させる
 ⇒上記を両立するよう工程を厳格に管理
- 比較的早期に現地着手した下流側や
 鉄道交差部等で躯体の構築を完了
 その他箇所では躯体構築中or躯体構築前
- 進捗状況に合わせたアクセスルートを整備

建設途中での供用にあたっての検討

9

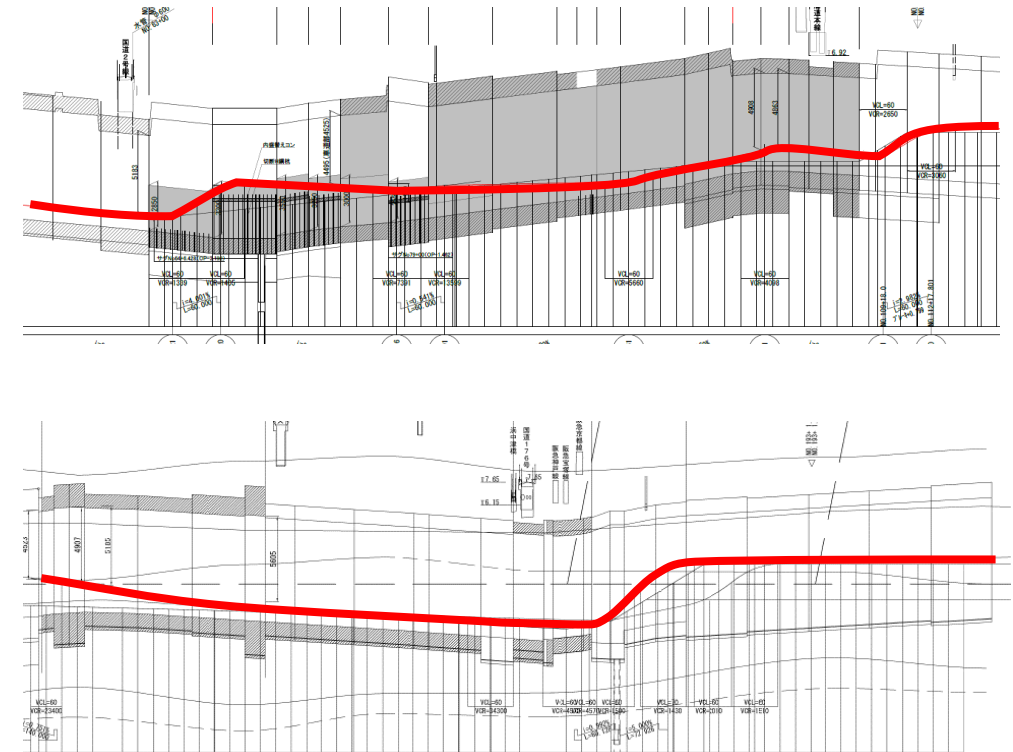
切梁撤去のための構造

- 万博開催時には工事を一時的に中断
- アクセスルートとして供用するには切梁撤去が必要
- 盛替えCoを設置することにより、構築途中の本体躯体により土留矢板を支持
- 内盛替えCoが設置できない場所では側壁盛替え+U型構造物で安定するよう設計



縦断線形

- 内盛替えCo高さ、掘削前区間のGLを考慮する必要があるため、縦断勾配が最終形とはならない
- 工事の進捗状況、車両建築限界、路面排水処理を考慮のうえ、最終形ではなく、万博時の暫定利用に際してのみの縦断線形を決定



効率的な工事継続のための工夫

仮設物の復旧計画

- ・ アクセスルートの通行には躯体構築時の栈橋杭が支障となるため一時撤去が必要

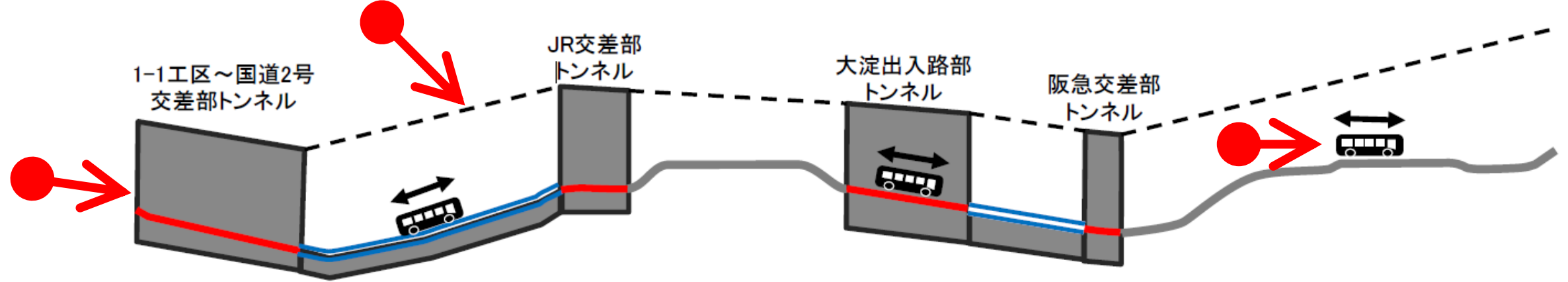


- ・ 頂版まで完成している区間では、栈橋杭→頂版への受替えに変更し栈橋を存置
- ・ 撤去する必要がある栈橋杭は、仮設材を再利用目的で撤去・仮置きの上再利用予定
- ・ さらに万博後の施工計画を再検討のうえ、栈橋の復旧を一部省略



現地の状況① (R7.1時点)

11



下流側坑口部 (TN完成部)



国道2号～JR神戸線 (TN一部完成部)



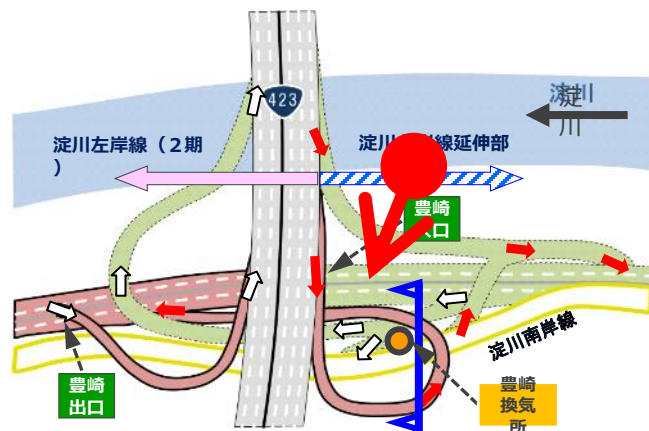
阪急電鉄～新御堂筋 (地表面通行部)



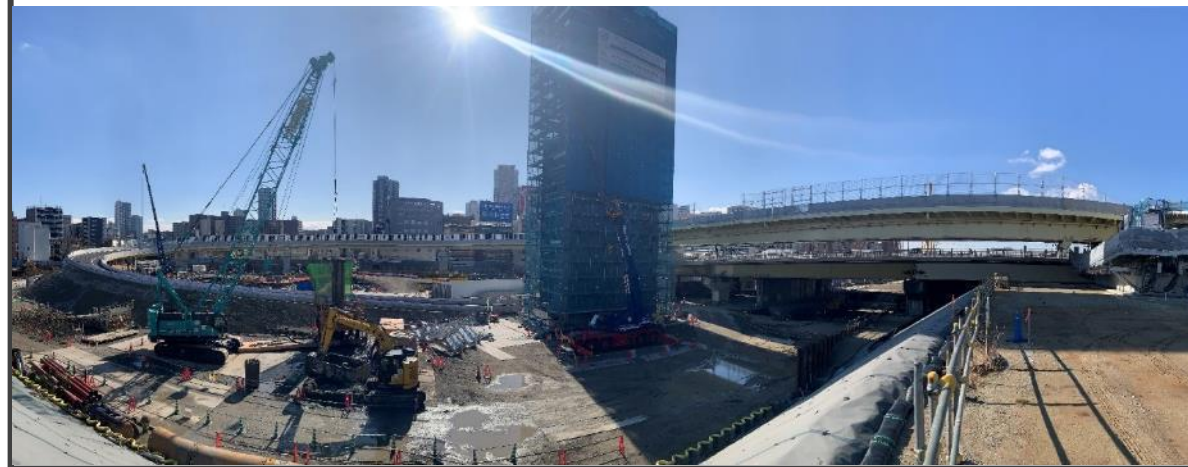
現地の状況② (R7.1時点)

12

豊崎IC



豊崎入路



大淀IC



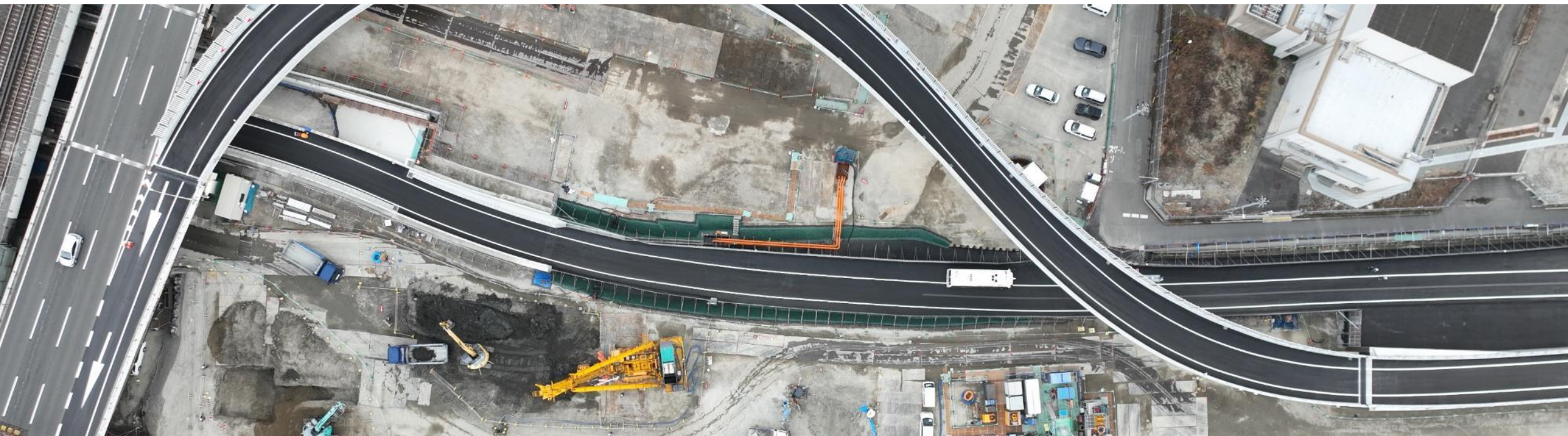
大淀出路



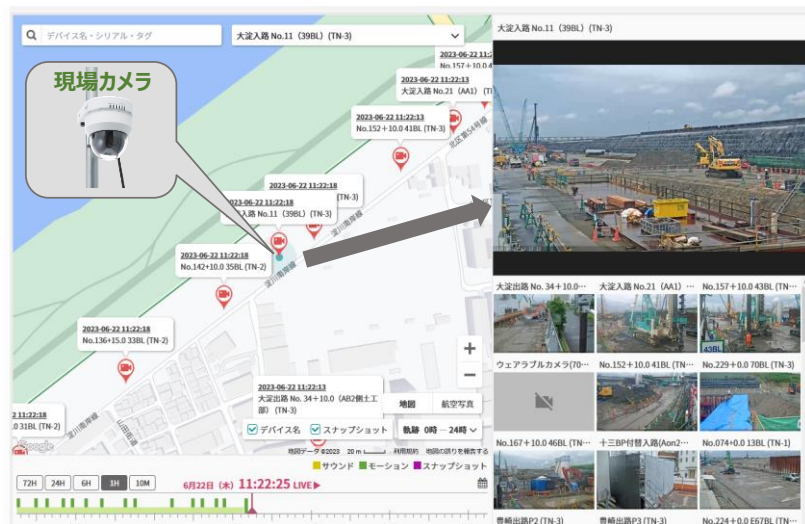
大淀入路



工程管理・事業監理の取組

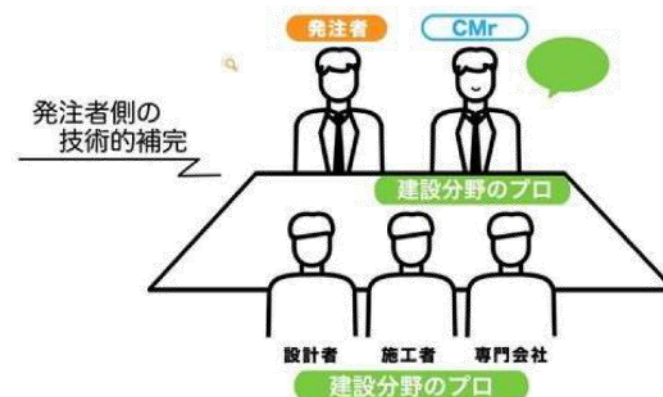


現場監視カメラ・事務所モニター



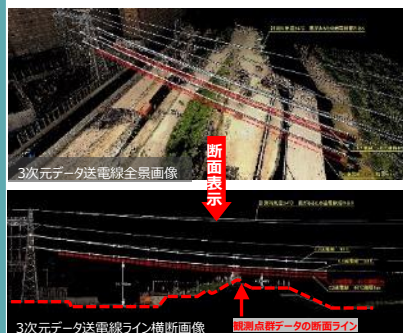
- 現場監視(WEB)カメラを工事現場全域に配置
- リアルタイム映像を遠隔で確認可能

コンストラクション・マネジメントの導入 14

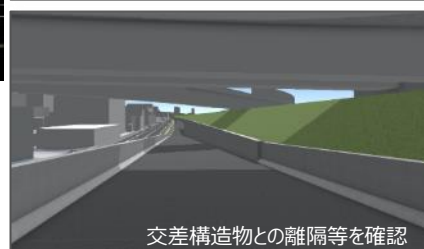


- 発注者と施工業者の間に立ち課題抽出等を実施
- 現場状況や各種ヒアリングからリスクの抽出・提案
- 設計変更対応等の中立的な見解・助言
- 工程のクリティカルを把握し事業の進捗をサポート

3D点群測量、3Dモデル、AR・VR技術の活用



- 3次元測量による任意箇所の情報確保
- 協議資料作成の効率化、離隔等の机上確認



- 3DCAD・測量データをもとに3D都市モデル構築
⇒ 整備イメージの具現化、各種協議や説明に活用
- ジャンクション等複雑な構造の見える化
- 正確なイメージの共有（現地視察等）

事業監理プラットフォームの活用



- GISを活用した情報共有プラットフォームを構築
- 現場課題や工程、事業費スタミナなどの最新情報を情報の機密レベルに合わせて関係者間で共有

限定した車両の通行を実現するための法的整理



■前提条件

- 安全・円滑な来場者輸送を実現するため、駅シャトルバスなど**特定の車両に限定**して通行させる（一般の用に供することはない）

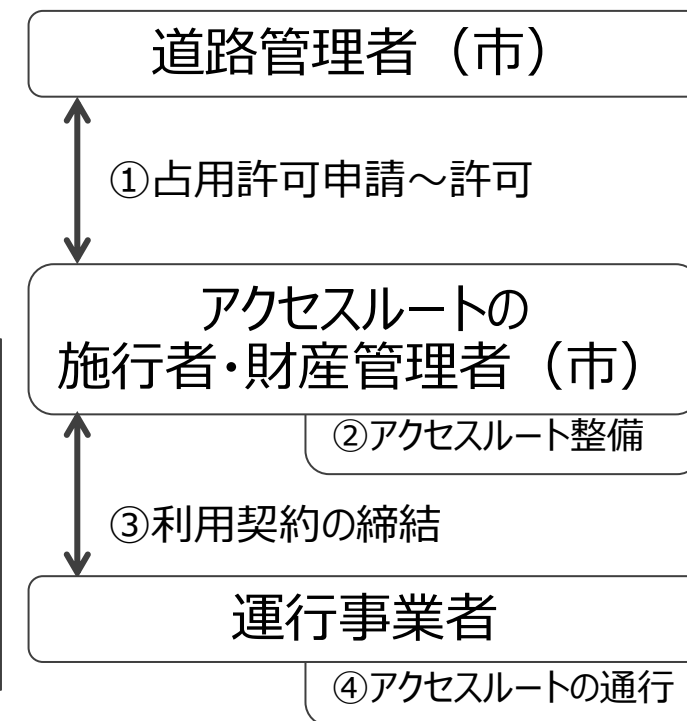
■道路法上の取扱い

- 道路の供用を開始すると、通行車両を特定の車両に限定できない
- 当路線は、「区域決定済」「土地の権原取得済」「供用開始は未」
⇒ **道路予定区域**（＝道路占用の条文が準用される）

アクセスルートの法的位置付けを明確にするため枠組を整理

- ① 「アクセスルートの施行者・財産管理者」である市に対して「道路管理者」である市が占有を許可
- ② 許可を受けた市が道路予定区域内にアクセスルートを整備
- ③ 整備した市が特定の車両を運行する事業者と民法上の契約を締結
- ④ 事業者は契約に基づき通行（＝契約者だけが通行できる）

<枠組のイメージ>



特定の車両を運行する事業者は、定時性を確保した安定的な輸送が図られ受益が発生

→当路線を利用する車両と利用しない車両との間での公平性の観点から
運行事業者等には金銭の負担を求める

金銭負担の求め方

■ 道路法に基づく占用料とする場合 ⇒ ×

運行事業者は通行するのみで、物件の設置を行わない ⇒ 占用に該当しない

■ 地方自治法に基づく使用料とする場合 ⇒ ×

「行政財産の目的外使用」又は「公の施設の利用」の場合は使用料を徴収できるが、

・ アクセスルートは万博来場者の利用を目的に設置する行政財産 ⇒ 目的外使用に該当しない

・ 主として市外の住民（万博来場者）の利用に供する施設 ⇒ 公の施設に該当しない

■ 民法上の契約に基づく利用料とする場合 ⇒ ○

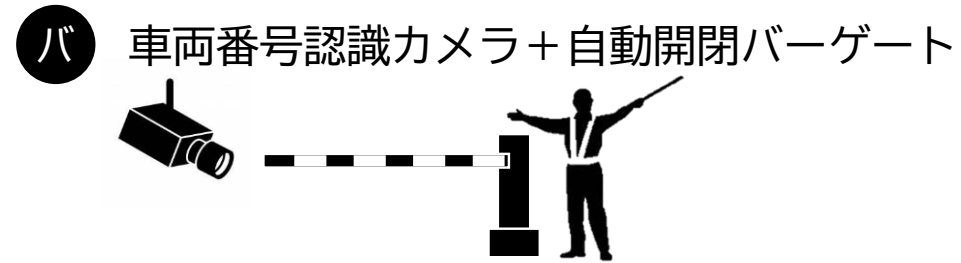
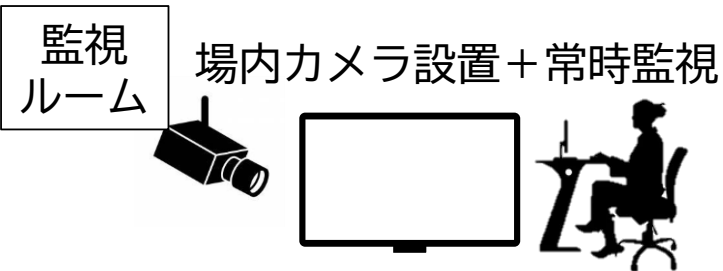
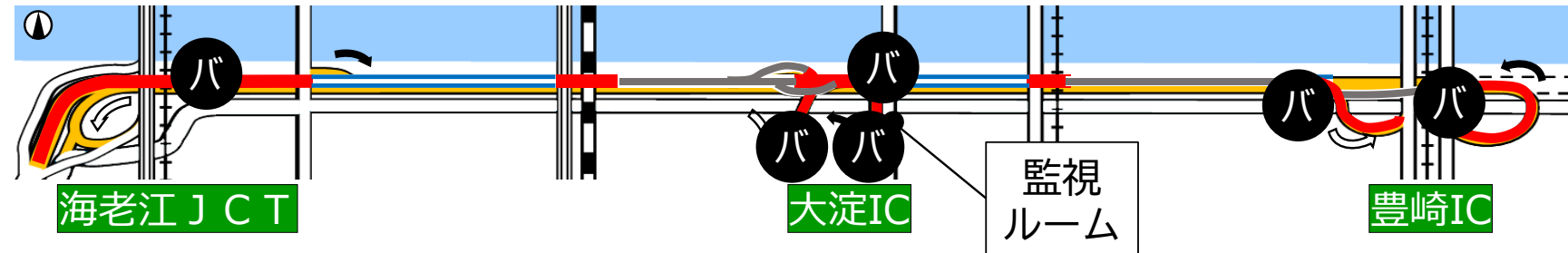
目的に沿った行政財産の利用にあたり、対価としての料金など必要な事項を定める利用契約を締結

運用管理の仕組み構築と施設整備



施設整備概要

19



カメラとバーゲートの連動～入退場管理

場内カメラによる現場監視



事業PRの取組



サイクル&ウォークイベント

- アクセスルートが完成し、一般の方に現場を見ていただく環境が整ったことから、市民の皆様の本事業への関心と理解を深めることを目的にイベントを開催
- サイクルイベント（事前申込制）は、募集開始翌日に応募者数が定員の150名に達し受付終了
- ウォークイベントには約1300名が参加
 - ✓ スタンプラリー
 - ✓ VRゴーグル体験などのブース出展
 - ✓ ドローンによる記念撮影



事業だより・YouTube

- 事業の内容や工事の状況、トピックなどを大阪市HPに「事業だより」として掲載
- 現場状況をドローンで撮影 YouTube動画として配信
- アクセスルート走行状況やイベント状況も配信



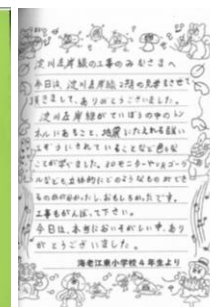
建設局YouTubeチャンネル ▶
(再生リスト)



出前講座



- 毎年、沿線の小学校を対象に出前講座・現場見学会を実施
- 市の担当者から事業目的や効果、万博時のアクセス利用、工事に際しての安全対策 などについて説明
- 大規模工事現場を体験



各種視察受入れ



出典：関西道路研究会HP
(R6年度道路視察)

まとめ



万博来場者の円滑な輸送を目的に
建設途上（未供用）の高速道路を活用

22



- ▶ 本体工事と並行したハード整備
- ▶ 法的整理
- ▶ 管理手法の構築・施設整備

アクセス時間の短縮、定時性の確保を実現

さいごに

万博来場者の総数は約2,820万人と想定

万博の成功に向け、開催期間中における来場者の円滑な輸送は非常に重要

万博期間を通じて安全かつ円滑に本路線を通行していただけるよう、引き続き適切な管理・運用を行います